

東日本ユニオン よこはま

JR 東日本労働組合
横浜地方本部
発行者/ 松田 和秀
編集者/ 教育・広報部

謹賀新年

組合員・ご家族・退職者連絡会の皆様、新年明けましておめでとうございます。本年もよろしく願います。

昨年を振り返れば、JR 東日本が発足して30年の節目を迎え、私たちを取り巻く環境が大きく変化した一年と言えます。2018春闘におけるJR 東労組のスト行使通告に端を発した労政の変化により、結果的に多くの組合未加入者をつくり出し、会社の一人勝ちを許す状況を生み出しました。かつてないほど労働組合の存在意義・必要性が問われる状況の中、私たち JR 東日本労働組合横浜地方本部は、結成以来こだわり続けてきたスローガン「組合員一人ひとりが職場を拠点とし全組合員参加型の分会運動を通じて組織の強化・拡大を目指そう！」に根差した運動を、職場から多くの仲間を取り組みを推し進め、3名の組織拡大に繋がりました。しかし組織拡大は出来ましたが、取り組むべき課題も山積しています。

「2018年度年末手当」交渉において、JR 東日本の第2四半期決算では、単体・連結ともに営業収益は7期連続の増収かつ第2四半期決算としては過去最高を記録し、私たちの掲げた3.6ヶ月の要求額に応える体力は十分あったといえます。しかし、会社は要求額を大幅に下回る3.18ヶ月の回答を提示してきました。4年連続の同額回答であり、この壁を打ち破ることが出来ない現状を打破するためには、分散してしまっている労働組合側の力を結集させ「JR 労働運動の一元化」の実現に向け、あらゆる取り組みを推し進めて行かなければなりません。

「2019春闘」は、今一度春闘のあるべき姿を組合員一人ひとりが捉え返すことが必要です。職場で働く全ての仲間との議論を通じ、労働組合にしかできない取り組みで本部交渉団を支え、要求満額を勝ち取っていきましょう。

昨年は、東日本ユニオンの仲間の組合員が現場で殉職するという事故が起きてしまいました。横浜地方本部としても安全の確立を最重要課題として取り組んできましたが、このような事故が起きてしまったことに深い悲しみを感ぜずにはいられません。二度とこのような悲しい事故が起きないように、安全問題に対する議論を開始しています。会社は、グループ経営ビジョン「変革 2027」の中で「グループ全体で『究極の安全』に向けた具体的な取り組みを推進する」としています。その取り組みを担う労働者の安全が脅かされては『究極の安全』は成し得ません。厳しい議論になることも考えられますが、働く者の「命を守る」ことを最優先に安全の確立にむけ、取り組みを進めていきます。

今後も全組合員参加の運動にこだわり、職場で発生する諸問題の解決を通じた分会運動の強化と、組織の拡大を目指し、JR に労働組合を残すために、皆さんと共にさらに強固な組織をつくっていきましょう。

年頭にあたり組合員・ご家族の皆様のご健勝とご発展を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

